

保護者様

北九州市立木屋瀬中学校
校長 牧島 伸 司

学 校 評 価 の アンケート の 集 計 結 果 に つ い て

花便りもほどなく聞かれる時候になり、保護者の皆様には益々ご清祥のことと存じます。さて、保護者の皆様に「学校評価アンケート」のご回答をいただき、その集計結果がまとまりましたのでご報告いたします。このアンケート等を参考に生徒のよりよい学校教育の実現を目指し、全校でいっそう取り組んでいきたいと思ひます。なお木屋瀬中学校ホームページにて掲載しておりますのでご覧ください。

令和5年度学校評価アンケート結果



学校評価アンケートからみえる成果と課題及び改善策について

今年度を振り返り、次年度への成果と課題につなげていきたいと思います。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後とも、本校の教育活動へのご理解。ご協力をよろしくお願いいたします。

グラフに関しては、A「そう思う」、B「どちらかといえば、そう思う」を肯定的評価、C「どちらかといえば、そう思わない」、D「そう思わない」を否定的評価として分析しています。

○基本的な生活習慣について

『自分は、「早寝、早起き、朝ごはん」などの生活習慣が身についている。』では 74.4%が肯定的評価であった。多くの生徒が保護者の援助を受けながら基本的な生活習慣を身につけている。学校生活においても、職員が『基本的な生活習慣が身についている。』に 88.5%の評価を出していることから、学校生活での立ち振る舞いは良好であると考ええる。受験勉強などから学年が上がるごとに就寝時間が下がる傾向にあるので、今後も引き続き保護者の温かい支援をお願いしたい。

○家庭学習習慣について

『自分は、計画的に家庭学習、宿題をし、毎日決まった時間に取り組んでいる。』では、71.0%(保護者 58.8%)が肯定的評価であった。職員が『宿題や家庭学習に取り組んでいる。』に 73.1%の評価を出している。学年別に分析すると、受験が近い 3 年生以外は、学習の定着に課題を感じる。考査前だけでなく、計画的に日々の家庭学習を定着させ、進路の実現に向けて努力してするよう、学校において子どもたちに声をかけていく。家庭生活において、スマホ等の使用時間を制限するなど、家庭学習の時間の確保をお願いしたい。

○学校生活について

『自分は毎日楽しく学校に通っている』では、87.1%(保護者 89.0%)が肯定的評価であった。また、『先生は、悩みなどの相談にのってくれ、いじめなどの問題にきちんと取り組んでいる。』では、92.3%(保護者 83.3%)が肯定的評価であった。今年度は、体育大会等の学校行事が少しずつコロナ禍前の状態に戻りつつあり、マスクを外した子どもたちの笑顔を垣間見ることができた。また、2、3年生の修学旅行や 1 年生のふれあい合宿のような宿泊行事において、感染症拡大防止対策を行いながら、自由な時間を有意義に過ごすことが可能となった。今後も、子どもたちの健康安全を第一に考え、充実した学校生活となるように支援していきたい。

○学力向上について

『自分は授業態度が良く、集中して授業に取り組むことができている。』では、91.8%(保護者 73.2%)が肯定的評価であった。また、『各教科の先生は、授業内容を工夫し、わかる授業に努めている』では、93.6%が肯定的評価であった。今年度の学力調査等の結果も併せて考察すると、子どもたちは学習に意欲的に取り組み、学力向上を目指して努力していることがうかがえる。校内の学力向上検討会議では、読解力・文章表現力を現在の課題とし、書く活動を増やす授業改善を進めてきている。今後は、さらにタブレット端末等を活用した ICT 教育(Information and Communication Technology:情報通信技術を活用した教育活動)を充実させ、これからの未来を担う子どもたちの育成に向けて、授業改善を進めていく。

○読書習慣について

『自分は一ヵ月に1冊程度本を読んでいる。』では、50.8%(保護者 32.9%)が肯定的評価であった。読書週間の取組によって、学校で読書をする生徒は増加している。しかし、家庭で読むことの読書習慣はまだ身につけていないのが現状である。ゲームや携帯電話の使用率上昇に反比例して、読書の比率が下がっている傾向にある。中学生での読書の目的の一つは、「追体験」である。作品を通して、自分が体験したこともないものを体験することや、想像を膨らませ文字を映像化していく過程には、多くの価値が含まれる。まずは、学校の図書室や地域の図書館、書店で本を選ぶことからスタートし、題名や目次などをみて自分が興味をひかれた本を選ぶように呼び掛けていく。また、学校図書館司書教諭が発行する「図書だより」を参考にしたり、図書室前の掲示物を読んだりすることも効果的である。さらに、図書委員会の活動を活性化させ、魅力ある図書室を創造していく。

○あいさつ運動の推進

『自分は、誰に対しても進んであいさつしている』では、89.5%(保護者 83.8%)が肯定的評価であった。あいさつは、コミュニケーションをとる上で最も有効な手段である。そして、人の第一印象を決める大事な行為である。そのため、本校は生徒たちの明るい未来のために「あいさつ日本一」を目指している。結果から、あいさつを受け取る側(保護者)の評価が自分自身(生徒)よりも低いことに注目する。「自分はしているつもり」では、あいさつが価値も持てない。家庭や地域から「あいさつが気持ち良い」との声が聴こえるように、まずは学校中にあいさつが響き渡るように職員生徒が一丸となって取り組んでいく。